

平成29年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 国本中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成29年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成29年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年(国語、算数、理科、質問紙)

中学校 第2学年 (国語、社会、数学、理科、英語、質問紙)

4 本校の実施状況

第2学年	国語	122人	社会	122人	数学	122人
	理科	122人	英語	122人		

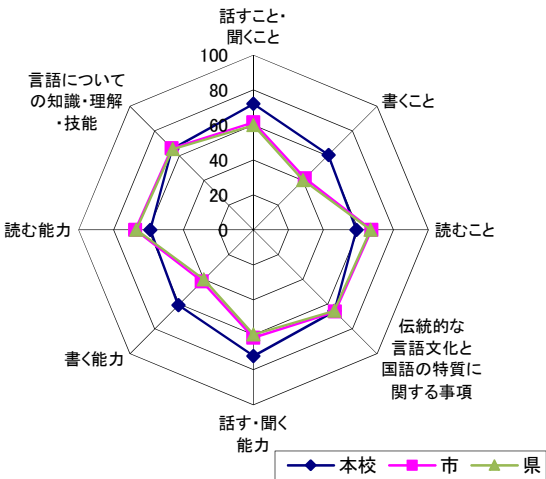
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立国本中学校 第2学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	72.1	61.6	59.9
	書くこと	60.7	41.7	40.1
	読むこと	59.0	67.6	67.0
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	65.6	66.1	65.4
観点	話す・聞く能力	72.1	61.6	59.9
	書く能力	60.7	41.7	40.1
	読む能力	59.0	67.6	67.0
	言語についての知識・理解・技能	65.6	66.1	65.4



★指導の工夫と改善

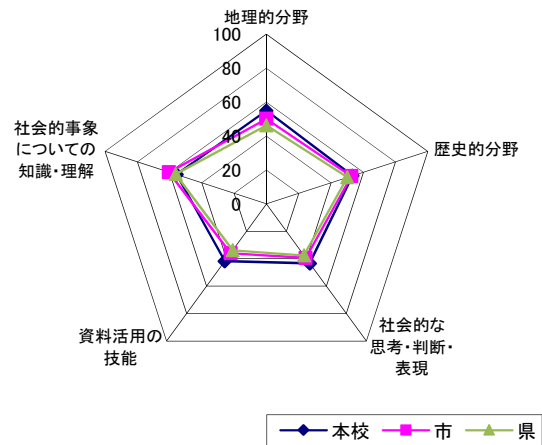
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○市の平均を10.5ポイント、県の平均を12.2ポイント上回っている。相手の発言を注意して聞き、自分の考えをまとめる力がある。 ●必要に応じて質問しながら話を聞き取る問題は、72.1ポイントで、県77.2、市78.5より下回っている。	・授業中に話し合いの活動を意識的に取り入れていく。単に話し合いをするのではなく、相手の発言に対して意図的に質問しながら話し合いを進めていくようにさせる。
書くこと	○市の平均を19ポイント、県の平均を20.6ポイント上回っている。文章の構成を考えて鑑賞文を書く力が備わってきている。 ●自分の考えの根拠を明確にして鑑賞分を書く力は、市平均より、0.5ポイント下回っている。	・意識的に「書くこと」を授業の中に設定する。作文の単元で、まとまった作文の授業を行うとともに、小作文などを書く機会を増やし、いろいろな条件で作文を書けるようにさせる。書くことに慣れさせる。
読むこと	○文学作品の表現の特徴を捉える問題は、よくできている。 ●市の平均を8.6ポイント、県の平均を8ポイント下回っている。説明文を要約したり、要旨を捉えたりして読む問題の正答率が平均より低い。文学作品の描写や会話文をもとに、登場人物の心情を捉える問題の正答率も平均より低い。	・説明文の授業では、文章の展開に即して内容を捉えることに重点を置き、接続詞に注意しながら要旨を捉えることや、内容を理解する力を身に付けさせる。 ・いろいろな文学作品を読むことで、場面の状況を捉えたり、登場人物の心情の変化を読み取る経験をさせる。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○歴史的仮名遣いの問題、文節の分け方の問題の正答率は高く、市平均を10ポイント、県平均を20ポイント上回っている。 ●漢字の書き「改める」の正答率が53.3ポイントと良くなかった。表現技法(擬人法)も正答率が77.9ポイントで市の平均、県の平均を0.5ポイント下回っている。	・新しい単元に入ったときは、家庭学習の課題として必ず漢字プリントを配布する。また、基礎の学習(ワーク)の新出語句の調べを家庭学習の課題として行わせる。必ず辞書を使って調べることで、たくさんの語彙力を身に付けさせる。

宇都宮市立国本中学校 第2学年【社会】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	地理的分野	54.9	50.0	46.2
	歴史的分野	53.3	52.6	50.2
	社会的な思考・判断・表現	43.4	39.4	37.6
	資料活用 of 技能	41.8	35.9	33.8
	社会的事象についての知識・理解	55.7	60.4	56.3



★指導の工夫と改善

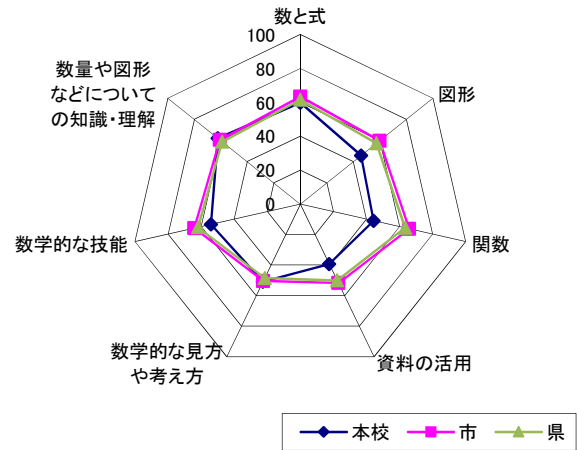
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	平成29年4月18日（火）	今後の指導の重点
地理的分野	○本年度は市の平均を4.9ポイント、県の平均を8.7ポイント上回った。 社会的思考・判断・表現や資料活用 of 技能についての項目については、市および県の平均を大幅に上回った。 ●社会的事象事象についての知識・理解については、市及び県の平均を下まわった。	・資料活用 of 技術では良い結果があらわれているので、短文記述や資料からわかることをまとめるなど、文章で表現する力をさらに伸ばしていく。 また、資料の比較や変化の読み取りなど、複数の資料を活用しながら考えさせるなど、思考力をさらに高めていく。 ・地理的事象についての基本的知識の理解について、理解が十分でない傾向がみられるため、小テストなど行い、用語の理解等を定着させる。
歴史的分野	○本年度は市の平均を1.4ポイント、県の平均を3.8ポイント上回った。 社会的思考・判断・表現や資料活用 of 技能についての項目については、市および県の平均を大幅に上回った。 ●分野別正答率では、「鎌倉時代～室町時代」についてよかったものの、「縄文時代～古墳時代」については苦手の状況であった。	・資料から読み取ったことを記述するなど、資料の読み取りや活用などの力をさらに高めていく。 歴史的意欲・関心を伸ばせるように、視聴覚教材をさらに活用していく。 ・得意な生徒と苦手な生徒との差が大きく開いた問題があった。年表などを活用して、歴史の大まかな流れ等、基礎的知識を定着させていきたい。 また、歴史的 content の理解が不十分な生徒も多くみられるので、小テストなどで、知識の定着をはかっていく。

宇都宮市立国本中学校 第2学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	59.8	63.3	61.5
	図形	45.9	59.8	57.4
	関数	44.3	65.9	63.4
	資料の活用	39.3	51.7	50.1
観点	数学的な見方や考え方	50.8	50.4	48.5
	数学的な技能	54.1	64.1	61.9
	数量や図形などについての知識・理解	62.3	60.6	58.9



★指導の工夫と改善

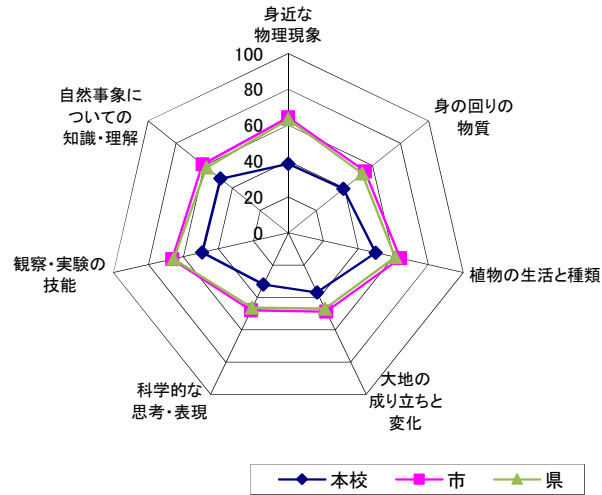
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○基本的な計算問題は正答率が比較的高い ●計算の中で符号を変えたり、分配法則などが入ってくると単純なミスが目立つ。	・問題演習の時間が全体的に足りないように思う。反復練習をすることによって、四則混合の計算や方程式の正答率は少しずつ上がってくると考える。演習時間を増やして指導にあたりたい。
図形	○知識の部分では市の平均を上回っている。 ●角度を求める問題や作図をする問題など技能的な問題が市の平均を下回ってしまった。	・「数と式」と同様に問題演習の時間が全体的に足りないように思う。知識を利用しながらの演習問題に取り組ませ指導にあたりたい。
関数	●全体的に関数についての苦手意識があるのか市の平均を大きく下回ってしまった。	・単純な座標を読み取る問題も正答率が低い。2年次には一次関数の部分で1学年の復習をしながら授業に取り組んだ。その都度、1年の内容の確認をしながら授業をする必要がある。
資料の活用	●資料から読み取り、それを数学的に表現する力が少し弱い。	・普段の授業からの生徒の発言を積極的に取り入れ、読解力とコミュニケーション力を付けられるよう指導していきたい。

宇都宮市立国本中学校 第2学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	身近な物理現象	38.5	64.3	63.2
	身の回りの物質	39.3	54.8	52.8
	植物の生活と種類	50.0	64.0	61.1
	大地の成り立ちと変化	36.9	48.8	47.0
観点	科学的な思考・表現	32.0	48.0	46.4
	観察・実験の技能	49.2	66.4	65.6
	自然事象についての知識・理解	48.4	61.1	58.3



★指導の工夫と改善

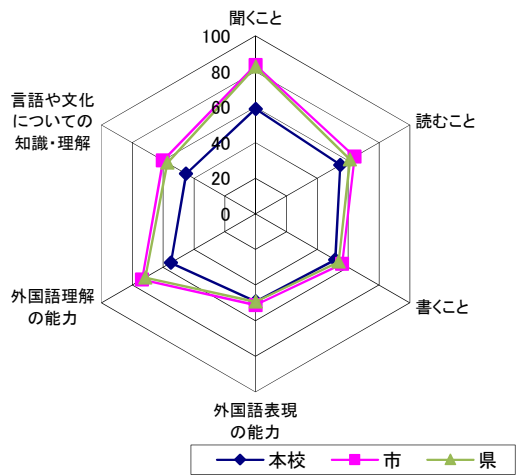
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
身近な物理現象	●県の平均を24.7ポイント下回っている。物体にはたらく重力の表し方、音の波形での大きさと高さを説明する。密度を求めて物質の種類を特定する正答率が低い。	・基本的な計算力を身に着けるとともに、その計算に至るまでの科学的な考え方ができるように、順序立てた考え方を身につけさせる。また、実験では、考察を大切にしていこうにする。
身の回りの物質	●県の平均を13.5ポイント下回っている。状態変化、水溶液中の溶質のようすを表す粒子のモデルを推測する正答率が低い。	・グラフから傾向を読み取ったり、目に見えない物への考え方・イメージなどを身につけさせる工夫をしていく。また、実験では考察を大切にさせる。
植物の生活と種類	●県の平均を14.0ポイント下回っている対称実験の結果から、植物のはたらきを推測する問題、またスケッチをもとに植物を分類し、その理由を説明する正答率が低い。	・これからできるだけ実物を見せ観察したり、実験で見せられるような授業の展開を心がけ、結果や考察を大切にしていこう。
大地の成り立ちと変化	●県の平均を10.1ポイント下まわっている。実験結果をもとに、「震度やマグニチュードがわかる」「図を基に、ある地点における初期微動継続時間が分かる。」の項目について正答率が低い。	・特に、火山・岩石について興味を持たせ、基本的な知識を身につけさせていく。またグラフから初期微動と主要動の時間を読みとり、計算する力を身に着けさせる。

宇都宮市立国本中学校 第2学年【英語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	59.0	83.6	82.6
	読むこと	54.9	64.2	61.2
	書くこと	51.6	56.2	53.8
観点	外国語表現の能力	49.2	51.2	49.4
	外国語理解の能力	54.9	73.7	71.5
	言語や文化についての知識・理解	45.1	60.1	57.3



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	○短い対話文の聞き取りや、イラストが表す短文の聞き取りはよくできていた。 ●市の平均を24.6ポイント、県の平均を23.6ポイントと全体的に下回っている。特に、時を尋ねるWhen～?の疑問文の聞き取りや、まとまりのある英文を聞き、質問に答える問題の正答率が低かった。	・挨拶、指示を英語で行うクラスルームイングリッシュや、英語で教師が生徒に話すteacher's talkなどを積極的に取り入れ、英語を聞くことに慣れさせる。 ・音のつながりを意識させ、教科書の本文音読を繰り返し行い、聞き取りの際にも音のつながりに気付けるように指導する。
読むこと	○英語の案内などの読み取りや、まとまりのある英語の読み取りはよくできている。 ●市の平均を9.3ポイント、県の平均を6.3ポイント下回っている。長文を読み、内容の把握を問われる問題が苦手な傾向がある。	・音読の際、主語と動詞間などにポーズをいれた「誰が何をしたのか」などの文の読み取りを意識するように指導する。 ・定期的に教科書以外の読み物を取り入れ、正誤問題や内容に関する質問をして、初見の文の内容を読み取る力の定着を図る。
書くこと	○一般動詞の過去の否定文に関しては県の平均を上回っている。 ●市の平均を4.6ポイント、県の平均を2.3ポイント下回っており、数を尋ねるHow many～?の文を正しく書ける割合がすくない。また、場面や条件に応じた英作文も正答率が落ちていた。	・How many～?を用いた疑問文を中心に、言語活動を積極的に取り入れ、英語を話す機会を増やし、語順の定着を図る。 ・「言えるけど書けない」語彙を増やさない・減らすために、新出単語の発音の練習をするときに、綴りを指で書く練習も同時に行う。 ・教科書本文を1文ずつ黙読し、合図と同時に顔をあげ黙読した文を何も見ないで言う活動に、「書く」作業を加える。英語を書く機会を増やし、既習単語・文法の復習をしながら、英語を書くことに慣れさせる。

宇都宮市立国本中学校 第2学年 生徒質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○生活アンケートの平日と休日の学習時間が増えていることから、学習意欲が高まってきていると考えられる。また、昨年度は学級力が平均－6.1で「クラスは発言しやすい雰囲気である」の項目のポイントが低かったが、今年度は－1.9に止まり改善が見られた。

●平日のネットの時間が昨年度に比べ、2～4時間の生徒が増えている。

・平日のテレビを見る時間やゲームをする時間が学習時間を上回っており、家庭学習が不足している。また、テレビやゲームをする時間が4時間以上の生徒がいる。

・保護者と生徒のコミュニケーションが少ない。

今後の指導上の工夫

・家庭学習ノートを継続させ、家庭学習習慣をしっかりと身につけさせていく。また、生徒一人ひとりの発言力や発言できるクラスの雰囲気づくりのために、学級活動や学校行事において、互いに認め合い協力し合う活動計画の工夫を今後も継続させていく。

・(国語)小学校での既習漢字を定期的に確認する機会を授業で設けていく。・書くことへの抵抗感をなくすため、継続的に書く場面を設けていく。

・(社会)社会的事象に対する興味・関心の高さを活かしながら、授業の中で資料を使う時間を増やし、資料活用能力を定着させていく。・効果的な振り返りの時間の確保。評価問題に資料活用の問題を多く取り入れる。また、意図的に生徒に定着させたい力を身に付けるための問題をテストに出していく。

・(数学)考え方の流れを再確認できるように途中の計算式の書き方を指導する。・板書の工夫により、既習事項をおさえる。また、多様な見方考え方により、比較・検討ができる課題を設定する。またあえて不正解例を取り上げ、問題になる部分を解明させる。

(理科)・豆テスト、問題を解く時間を設ける。また、生活実体験に結び付けて考えさせることで、学習意欲を高め、理解を深める。・実験の準備等、理科部会で集まって行い、授業向上を図る。また、教師側が話すだけではなく、主体的に自分たちで考えさせる時間を作る。

(英語)・帯活動として、英語での1分間スピーチや英作文を実施する。また、生徒が主体的に表現できるような活動を取り入れる。

(各教科)

・振り返り活動のひとつとして、問題を作る活動を取り入れる等、振り返りの時間を確保し、振り返りの内容を充実させる。

・ネットトラブル講習会を実施し、ネット依存の解消につなげていく。

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・学習強化週間の実施	・学習強化週間の実施 定期テスト前の1週間、家庭学習ノートを毎日提出し、学習状況を確認していく。 定期テスト3日前から、学習相談を実施。	・学習相談を始めて、参加する生徒の人数が増えた。また、自習体制ではなく、学習相談を通して、積極的に質問するようになった。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・学習習慣の向上(平日や休日の学習時間の少なさに比例し、テレビを見たりやゲームをする時間が多い)	・スタンダードダイアリーをさらに活用し、学習時間を記入したり、休日の日課表を記入させていく。	・スタンダードダイアリー内の学習時間や、休日の日課表を記入させていくことにより、自分の時間の使い方を振り返りさせる。